

令和2年度学校自己評価システムシート（県立熊谷特別支援学校）

目指す学校像	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を行い、可能性を伸ばし、保護者・地域から信頼される学校
--------	---

重点目標	1 児童生徒一人一人を尊重し、成長発達を促す授業の充実 2 家庭・地域とつながり、チームワークを生かした学校づくりの推進 3 健康で安心安全に過ごせる教育環境の整備・充実
------	---

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	5名

学 校 自 己 評 価				年 度 目 標			年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>○複数の教職員で児童生徒の実態と課題を捉え、共通認識をもって授業を展開している。継続してチームとして、生活と将来に向け一貫性・系統性のある指導を積み重ねる必要がある。</p> <p>○コミュニケーション力において、土台となる「人に伝えたい」「人とつながりたい」という気持ちを育てる。また、その表現や手段を計画的に身につけ、活用できる学習を行う。</p> <p>○学習内容によって、ICT機器が有効な場合、積極的に活用し、学習意欲や学習効果を高めていく。</p> <p>○学校研究や校外の研修に参加し、授業実践を行うことで、更に実践力の向上を図る。教育課程検討委員会において、新学習指導要領に対応する各教科の目標と評価の整理を行っている。</p> <p>○職員間の挨拶や子どもを中心とした話題や情報共有に努める。さらに部署横断的な職員の協働作業や、共有話題、研修会などの機会を設定していく</p>	(1)児童生徒一人一人がわかりできる授業の充実	<p>①児童生徒一人一人の実態と課題を明らかにし、指導内容や教材を工夫するとともに、授業の質の向上を図る。</p> <p>②授業展開の中でICTを有効に活用し、理解と定着、活用を促すとともに、チームとしてわかりできる授業を進める。</p>	<p>①教員間で児童生徒の実態や課題を共有することができたか。授業内容や教材を目標に応じた指導ができたか。</p> <p>②ICTを効果的に活用した授業で、児童生徒の学習意欲や理解、定着、活用に改善が見られたか。（保護者・教職員アンケート活用）</p>	<p>・およそ9割程度達成できた。</p> <p>①学習グループの教員間で実態や課題の共有が定期及び随時図られ、指導に反映できた。</p> <p>②タブレットを中心としたICT活用で、理解や意思表出の促進につなげることができた。調べ学習や個別学習など個々に異なるが活用も進みつつある。</p>	A	<p>①継続して教員間での情報共有と相互理解を深め、PDC Aサイクルで改善を重ね、授業の質の向上を図る。</p> <p>②タブレットの活用では、わかり・できるための補助として更に授業で活用し実践例を積み重ね、校内で実践例の共有をしていく。</p>			
		(2)生活と将来につながる力の育成	<p>①生活や将来の視点を大切に、学びが生かせる授業づくりを行う。</p> <p>②コミュニケーション力において、個々に応じた意欲と表現、手段を身につける授業を行う。</p>	<p>①生活や将来像の視点をもち、生かせる力を身につける授業ができたか。</p> <p>②コミュニケーション力に定着や応用を促す授業ができたか。（保護者・教職員アンケート活用）</p>	<p>・およそ8割程度達成できた。</p> <p>①生活や将来像の視点をもち、指導を実践したが、本人及び保護者との共有が十分でなかったことも考えられる。</p> <p>②様々な場面でコミュニケーション力の育成をねらい、個々の表出や受容に多くの成長があった。</p>	A	<p>①生活や将来像に生かす力の育成は大切であり、今後も目標や学習内容に取り入れ授業を行う必要がある。同時に進路に関する情報の提供を継続する。</p> <p>②コミュニケーション能力の育成について活用場面も含め段階的な指導を継続する必要がある。</p>			
		(3)教職員の力量形成とチームワーク指導の質の向上	<p>①全校研究や研修において、学んだことを授業実践において検証し、指導力の向上を図る。</p> <p>②学年や学部を超えた協働の機会を設定し、チームワークによる指導や業務の質を高める。</p>	<p>①研究や研修の学びを授業で実践検証し、教職員の力量に変容が見られたか。（教員アンケート活用）</p> <p>②協働での会議や研修、作業が行われ、良好な関係でチームワークでの指導や業務の質が高められたか。</p>	<p>・およそ7割程度達成できた。</p> <p>①全校研究で授業力向上をねらい授業動画を校内で共有できるようにした。研修や学習会では各自で研修テーマを選び重点的に学び、授業実践に生かした。</p> <p>②新型コロナウイルス感染防止に伴い、協働での機会が持てなかったが、互いを知り協力が増えた。</p>	B	<p>①全校研修は今年度のテーマで来年度を合わせた2年研究とする。各研修や学習会は、教員により各自のニーズが異なるが、自主的に探し学び続ける教職員としての資質の向上を図る。</p> <p>②良好な関係とチームワークを土台とした組織文化の醸成をねらう。</p>			
2	<p>○保護者との連携を密にした指導計画作成や学習指導を心がけて行っている。合意形成を図り、生活や将来につながる計画を立て、指導実施を継続していく。</p> <p>○地域とのつながりにおいて、本年度よりコミュニティースクールとしての学校づくりの推進</p> <p>○センターの機能において、地域の幼保小中高等への教育相談や巡回相談、支援学習等を継続・発展して行う。</p>	(1)保護者との連携の強化	<p>①連絡帳や個別面談等において、連携や情報共有を密にするとともに、児童生徒・保護者のねがいを反映し、成長発達を促す授業を行う。</p>	<p>①保護者との連携や情報共有を密にするとともに児童生徒・保護者のねがいを反映し、成長発達を促す授業ができたか。（保護者アンケート活用）</p>	<p>・およそ9割程度達成できた。</p> <p>①日々の連絡帳や個別面談の機会等に連携を重ね、ねがいを反映し同じ方向性を目指した授業を行うことができてきている。</p>	A	<p>①連絡帳や面談だけでなく随時直接や電話連絡等での連携を継続する。発達や生活、将来の視点も共有し、一貫性・継続性のある授業を組織的に目指す。</p>			
		(2) コミュニティースクールとしての学校づくりの推進	<p>①地域へ教育活動を発信するとともに、協働で実施できる行事等を整理する。</p>	<p>①コミュニティースクール1年目として、本校の教育活動を地域に発信することや協働での学習活動を検討・実施することができたか。</p>	<p>・およそ6割程度達成できた。</p> <p>①第1回運営協議会を実施し、学校を知っていただくとともに、貴重で協力的な意見をいただいたが、新型コロナウイルス感染の現状でできることが限られた。</p>	B	<p>①次年度も直接的な地域や学区での教育活動、また交流学習は困難と考えるが、間接的にもできることを模索し、学びと成長につなげていく。</p>			
		(3)センター的機能の発展	<p>①コーディネーターや自立活動を中心に地域のニーズに応えた相談活動を継続する。</p>	<p>①地域に発信すると共に地域のニーズを受けセンター的機能の役割を担えたか。</p>	<p>・およそ7割程度達成できた。</p> <p>①地域支援と支援学習は、感染状況を鑑みながら可能な条件で実施できた。</p>	B	<p>①地域支援のニーズはあり、センター的機能を担うため、可能な方法を模索しながら実施していく。</p>			
3	<p>○施設設備に関して、毎月の点検や随時の不備対応を行っている。継続して、教育環境の整備・充実、不備へ対処する。</p> <p>○安全な給食提供が複数のチェックにより実施・確認されている。食事指導に関しては、食生活を豊かにし、摂食機能の向上を目標とし指導を行う。</p> <p>○医療的ケアに関する関係者間での情報共有と緊急時の対応訓練は実施されており、今後も継続してチームで対応する。</p> <p>○緊急時や災害時において組織的に対応できる体制を整備する必要がある。</p>	(1)教育環境の整備・充実	<p>①定期的な設備点検と随時の不備への迅速な対応を行い、教育活動の保持を図る。</p>	<p>①毎月の設備点検と修理を迅速に行い、教育環境の保持ができたか。</p>	<p>・およそ9割程度達成できた。</p> <p>①毎月の設備点検と修理、また空調工事が完成し、教室環境が整った。</p>	A	<p>①新型コロナウイルス感染対策も含め、今後も学習環境を整えて、修理修繕を加えていく。</p>			
		(2)安全な給食提供と摂食指導、チーム対応での医療的ケアの実施	<p>①給食室を中心として安全でおいしい給食を提供し、摂食において個々に応じた指導を行う。</p> <p>②安心安全な医療的ケアのチーム対応を継続する。</p>	<p>①安全な給食の提供と個々に応じた摂食指導ができたか。</p> <p>②安心安全な医療的ケアをチームで連携・協力してできたか。（保護者アンケート活用）</p>	<p>・およそ9割程度達成できた。</p> <p>①安全な給食を提供できた。</p> <p>②チームで医療的ケアに取り組み、事故なく安心安全に進めることができた。</p>	A	<p>①継続して安全でおいしい給食を提供する。個々の摂食指導を共有し、安全性と発達を促す。</p> <p>②毎月のヒヤリハットを共有し、チームで確認し合い、円滑に進める。</p>			
		(3)緊急時・災害時対策	<p>①様々な緊急時・災害時を想定して組織的に対応できるよう体制の編制と対策の周知をする。</p>	<p>①事故等の緊急時や自然災害等への組織的対応の想定と訓練や準備ができたか。</p>	<p>・およそ9割程度達成できた。</p> <p>①年2回の総合避難訓練を計画実施した。</p>	A	<p>①自然災害や事故、感染等を想定した組織的な訓練や準備を継続する。</p>			

学校関係者評価		
実施日	令和3年2月19日	
学校関係者からの意見・要望・評価等		
<p>・児童生徒個々の実態把握と教員間での共有、タブレットの活用等で授業の継続。・児童生徒ファーストでの指導の継続・保護者アンケート結果から高評価されており良い。教職員は授業で勝負。ICTの活用は継続して、今後もタブレット等の活用の活性化として実践例の検討、発展、共有が求められる。</p>		
<p>・この項目が児童生徒にとって一番重要な部分であり、より一層力を入れて取り組む。・児童生徒個々の興味関心を今後の生活や将来にどう生かすかを見出す。・引き続きキャリア教育の充実が望まれている。その子らしい生き方の追求に尽力する。コロナ禍であるが体験的学習の展開等の工夫を求める。</p>		
<p>・校内見学の際に教職員の真剣に向き合っていた。継続を。・コロナ禍での研修に困難さがあったが、校内での意見交換等で業務の向上を図った。さらなる資質の向上を。・教員により経験差があるため、指導グループ内で標準化したチームでの指導を。・実践へのこだわりを持つことは大切で、忙しい中でも授業研究に費やす時間を捻出。熱意とやる気で気持ちや思いに寄り添った指導の継続を。</p>		
<p>・児童生徒からの願いを聞き、反映することが本人の成長を促す力につながる。・継続して、連絡連携を。・授業の充実として評価を具体的にわかりやすく伝えることも大事。</p>		
<p>・コロナ禍を残念に思う。ICT活用等で情報発信や間接的でも交流及び共同学習を。・第2回運営委員会が書面開催となったため達成度は客観的に。地域自治会とのつながりの活用を。・学校行事を自治会等を通じて連絡し、地域との交流の進展。</p>		
<p>・感染状況に応じ地域の学校との交流の再開。・学区が広いが、可能な限り地域へサービスを。・就学前乳幼児への支援の充実を。</p>		
<p>・今後とも児童生徒家族が安心安全に通学できる教育環境の保持を。・日常的な点検整備や合理的配慮の提供の継続を。施設への改善要望の継続を。</p>		
<p>・リクエスト給食などの取組と事故のない楽しい給食を。継続して医療的ケアのヒヤリハットの共有と緊急時シミュレーションを。・特に注意が必要な項目であり、安心安全の確保と複数チェックを。・再調理の個々への微調整の工夫を。</p>		
<p>・日頃の訓練等の継続を。福祉避難所でもあるため、将来的には地域の防災訓練との連携を。</p>		